

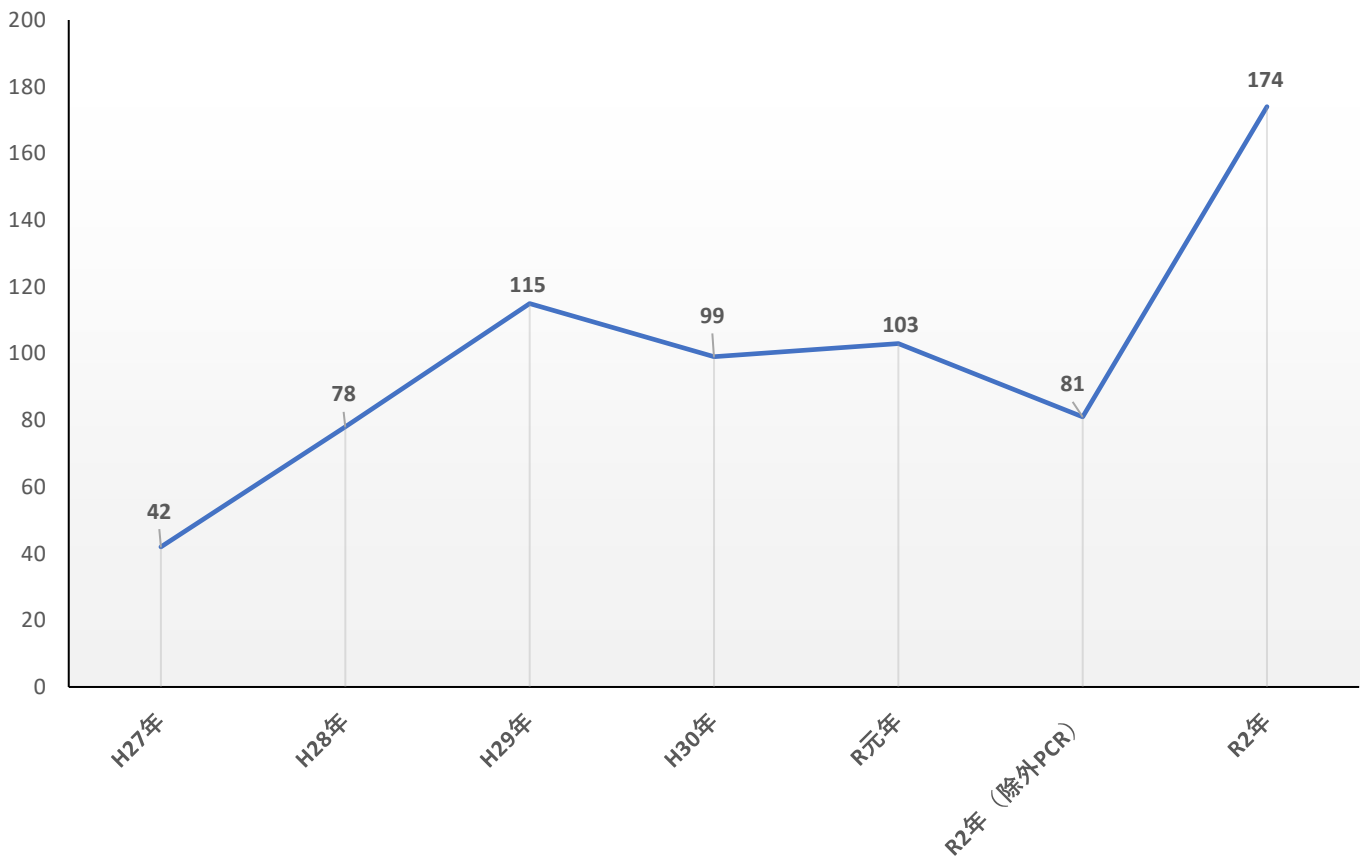
## 在宅医療介護連携支援室 令和2年度上半期実績

令和2年10月  
武蔵野市医師会在宅医療介護連携支援室 石井

相談件数 (4月～9月) (件)

	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年(除外PCR)	R2年
相談件数	42	78	115	99	103	81	174

相談件数



- ・医療と介護の連携に関する相談は平均して入っている。
- ・今年度上半期はコロナの流行に伴い、コロナ関係の相談が計上され相談増となっている。
- ・コロナ関連の相談は93件。

## 相談内容 (4月～9月) (%)

		H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2 除コウ	R2 含コロナ
在宅	在宅療養調整	59.5	56.4	43.5	43.4	34.9	54.3	25.3
	入院入所調整	11.9	11.5	5.2	10.1	13.6	9.9	4.6
退院	退院在宅調整	2.4	1.3	11.3	7.1	2.9	9.9	4.6
	転院調整	0.0	7.7	9.6	4.0	14.6	6.2	2.9
	MCS		7.7	12.2	8.1	9.7	12.3	5.7
	その他	26.2	15.4	18.2	27.3	24.3	7.4	3.4
	コロナ関係							53.5

は未対応。

- ・今年度上半期の相談内容は、半数以上、コロナ関係、PCRについてとなっている。
- ・コロナ関係を除いた相談内容としては在宅調整に関することが例年通りに半数を占めている。
- ・コロナを除く相談については、在宅基盤の患者さんの療養についてが多くを占める。
- ・感染症に伴う入院の制限等により、在宅からの入院やショート調整相談は減。
- ・入院入所制限、面会の制限等により、在宅療養をせざるを得ない状況も垣間見ることができる。
- ・在宅療養相談の特徴としては、患者本人、家族に精神疾患が疑われるようなケースが増えている。  
現在、精神科の往診が、医療保険の算定上できにくいいため、専門性のある診断を受けることが困難。
- ・入院相談については、熱発の患者の受け入れ先がPCR検査後でないと決まらない。

## 相談者 (4月～9月) (%)

	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年
医療機関	19.0	30.8	26.1	27.3	27.2	45.4
地域包括・在支・行政	19.0	20.5	12.2	19.2	17.5	13.2
居宅（ケアマネ）	33.3	35.9	42.6	30.3	35.9	23.6
訪問看護	9.5	1.3	1.7	1.0	1.9	1.7
訪問介護系		0.0	0.9	1.0	0.0	0.6
通所系		5.1	0.9	0.0	1.0	0.0
施設系		1.3	1.7	2.0	1.9	1.1
その他	19.0	5.1	13.9	19.2	14.6	14.4

は未対応。

- ・PCR検査、熱発患者の処遇についての医療機関からの相談が多く占めた。  
会員医師との連携が深まり、今後の医療介護相談にもつながっていくと思われる。  
詳細、別項目、コロナ関係相談参照。
- ・前年度同様、ケアマネからの相談は多数を占めるが、連携の取れているケアマネからの相談が多い。さらなる今後の「連携支援室」の周知が必要と思われる。

## 出席会議 (回数)

(4月～9月)

	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年
	28	40	29	38	32	18

- ・感染症対策として会議の中止や延期が相次ぎ、総数としては減。
- ・今年度後半に入ってから、オンライン会議も導入されてきている。

## 訪問件数 (件数)

(4月～9月)

	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年
	64	96	49	74	52	84

- ・感染症対策として、訪問等を控えていた。84件のうち48件はPCR検査センター(以下センター)業務。センターを含まない訪問、来館は36件となる。
- ・支援室の周知や顔の見える関係づくりも目的とした訪問活動であるが、ともにセンター業務を行うことで、担当の医師、看護師、健康課との連携を深めることができた。

## コロナ関係相談 (件数)

(4月～9月)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
0	25	27	17	20	4	93

## コロナ関係相談者 (件数)

(4月～9月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
医療機関	0	16	18	12	13	2	61
地域包括(在支、行政)	0	4	2	0	2	0	8
居宅(ケアマネ)	0	0	1	0	1	1	3
訪問看護	0	0	0	1	0	0	1
訪問介護系	0	0	0	0	0	0	0
通所系	0	0	0	0	0	0	0
施設系	0	0	0	0	0	0	0
市民	0	5	6	2	2	1	16
その他	0	0	0	2	2	0	4
合計	0	25	27	17	20	4	93

- 予期せぬ初めての感染症であり、医療相談として医療機関、市民からの相談が相次いだ。
- 5月から市と医師会、日赤の協力にてPCR検査センターを設置。  
医療機関からは検査の仕組みや書類も含めた流れについても多くの相談を受けた。
- 一般市民、一般の会社からの相談も来たものは受けた。
- 医療機関からの主な相談内容
  - PCR検査や熱発患者の受診について
  - 検査に関する相談（利用交通機関、手順、費用、在宅療養患者の検査）
  - 陰性証明としての検査について
- 市民からの主な相談内容
  - 陰性証明としての検査について
  - 熱が出ている
- 介護事業所からの相談内容
  - 熱発した利用者との接し方
  - デイの職員が熱発
- 一般の会社からの相談内容
  - 会社の近くでコロナ陽性がでている。社員に検査をしたい。
  - 社員が陽性に。保健所で濃厚接触者とならなかった社員にも検査を受けさせたい。

## 考察

R2年上半期は、予期せぬ感染症流行で始まり冬期への再拡大リスクで翻弄された。武蔵野市医師会では5月に市役所健康課と「PCR検査センター」を設置。医療介護連携支援室が関わることにより、きめ細かな対応ができ、円滑な連携体制が取れた。医師会会員、介護事業者、市民の不安に迅速に対応できる結果となった。例年の相談体制に加え、感染症相談体制を敷いた。これも医療介護の相談であり医療介護連携支援の目的を果たしたものとする。感染症対策による活動の減少が高齢者の心身の低下を招く心配もあり今後、コロナの感染状況を見つつ、今後の支援室の体制強化を進めていく。